

# 平成30年度 第1回 会津図書館協議会 会議録

日 時：平成30年10月30日（火）13：00～15：30

場 所：生涯学習総合センター3階研修室5・6

出席者

委 員 9名出席

事務局 生涯学習総合センター所長、会津図書館長、副主幹、主査、主任主事

## 1. 開 会

## 2. 挨拶

会津図書館長

会津図書館協議会委員長

## 3. 議 事（委員長を議長とし、進行）

### （1）平成29年度統計資料について

※事務局より説明

<質疑応答>

議 長：11pの特別貸出・学校支援図書セット（以下：図書セット）の貸出件数が、前年度から約10倍に増えているのはなぜか。

事務局：今年度より、図書館内で活動しているボランティアグループへの貸出件数を含めたために増加した。

図書セットの貸出件数は、昨年度学校図書館支援員（以下：支援員）へ利用促進の働きかけを行い、貸出が増えた。特別貸出の冊数が減っているのは、小学校が図書セットを利用するようになり、特別貸出が減ったからと考える。

議 長：学校図書館への貸出が増えたことは、支援員の力が大きいと考えるがどうか。

事務局：支援員を学校に配置した効果が出ていると考える。

### （2）平成30年度図書館要覧について

※事務局より説明

<質疑応答>

委 員：今年のビブリオバトルについて、非常に興味深く拝聴したが、以前中学校で見た内容に比べてみんな大人しい印象を受けた。高校生の参加者が少なく、発表のみで投票は省略していた。観戦者にもう少し積極的なアピールがあれば良かった。

事務局：ビブリオバトルの規定で、3名以上でないとバトルにならない。今年は高校生が2名しか参加しなかったため、ゲストとして発表し、投票は行わないという形になった。

また、今年からビブリオバトル福島県大会の地区予選会が始まり、会津地区予選会が会津ビブリオバトルの1週間後と時期が被った事で、高校生の参加が少なかったようだ。

事務局：予戦では4つのグループに分かれ、その中では非常に生き生きと、自分たちの言葉で本の紹介をしているが、決戦になると、観戦者が多いため緊張したのではないか。

議 長：県の地区予選会と会津ビブリオバトルは別のものなのか。

事務局：別のものである。県は今年度から、参加者が増えているという理由で、浜通り・中通り・会津で地区予選会を行い、上位者が福島県立図書館で決勝戦を行う形に変えた。会津ビブリオバトルを県の地区予選会に位置付けられないか、と県と協議したが、他の図書館との兼ね合いもあるため、（会津ビブリオバトルと）予選会は別にしたと県から要望があり、今回は別々の開催となった。様子を見て今後も県と話をしたい。

議 長：県のビブリオバトル地区予選会には、会津地区の高校生がどのくらい参加したのか。

- 委員：会津地区では12名の参加があった。（中通り：23名、浜通り：9名）  
会津地区の生徒の性格であるのかはわからないが、（本を読む生徒は）自分から積極的に意見を述べたり、人前で話したりすることがあまり得意でなく、得意な生徒はあまり本を読んでいないといったジレンマがあり、参加生徒を集めるのが難しいという感想があった。学級へのチラシ配布や担任の先生への働きかけ、他の先生を巻き込む等、各学校でいろいろ努力したが、難しかった。どの学校も生徒集めに苦労している。司書の方でも、強制的にビブリオバトルへ参加させるのは、逆に読書への意欲をそぐのではないかと考えている。今後、生徒へどのようにビブリオバトルを普及させていくか、考えていかなければならない。
- 事務局：高校生の参加が2人だけなので、当日飛び込みで一緒にビブリオバトルを行った。時間があつたので、本を選んだ理由やおすすめの本など、色々話をした。  
高校生にとっては、先生以外の大人と話す機会は少ないと思うし、逆にこちらも、高校生と話す機会はあまりないため、年齢・世代の違う人が、本を通して話が出来て非常に良かった。  
参加するまでのハードルが高い点については、例えば他の場所でやっているように漫画本をOKにするとか、高校生が参加しやすいような手法を考えていく必要があると思う。
- 議長：県の熱心さ、力の入れようは私も知っていたが、それでも高校生をこういう場に参加させるのは大変で、難しいと感じた。
- 事務局：今年度から出前講座にビブリオバトルを加えた。いきなり会津ビブリオバトルへ参加することのハードルが高いのであれば、学校で出前講座を実施し、楽しさを分かってから参加してもらってもいいのではないかな。

### （3）平成30年度事業実施状況（上半期）について

※事務局より、パワーポイントを使用しながら報告

- 議長：協議会委員の中には主催団体として事業に関わっている方もおり、何かあればお話いただきたい。
- 委員：今年の読み聞かせ講座は、募集定員を上回る応募があった。学校で実際に読み聞かせ活動をしている人も参加していたため、積極的に様々な質問等もあり、大変有意義な会になったと思う。  
絵本の音楽会は、大変好評で入りきらないくらいの来場者がいる。防災上の理由から階段・通路に座ることは難しいと分かっているが、せっかく来てくれたのに入れないのはとても残念だと思う。来場者全員にイベントを楽しんでもらえる良い方法が無いか、図書館職員と話し合いながらやっていきたい。
- 事務局：年々来場者も増えている。途中の出入りが難しい事や、消防法の関係で収容人数の上限が決まっており、全員を入れるのが難しい。  
今年は前半と後半の休憩時間に、入場待ちの方と退場の方を入れ替えて対応した。来年に向け、できるだけ多くの方に参加してもらえよう、担当と検討していく。
- 委員：ブックスタート事業にボランティアとして参加している。他課（こども家庭課・健康増進課）と連携しないとできない事業なので、一歩進んでいると感じた。  
活動の中で、ある母親から「赤ちゃん絵本って微妙ですよ」と言われたことがあった。確かに、赤ちゃん絵本はただ読むと面白さがよく分からないものだが、「一人の人間として赤ちゃんに語り掛け、文字以外の優しい言葉を添えて読む」ものなのだと伝え、その母親に読んで見せたら理解してもらえた。そういった経験から、ただ本を渡すだけでは駄目で、読んで見せる・やって見せるということが、今のお母さんたちに本当に必要なことなのだと感じた。
- 議長：事前に三課で打ち合わせを行っているのか。
- 事務局：事業開始前に三課で入念な打ち合わせを行った。以降は特に行っていないが、子ども読書活動推進計画の会議で話をすることがある。また、当日同じ場所で活動する健康増進課とは、現場で協議をして改善している面もある。
- 議長：今のお母さんたちは、ただ教えられるだけではなく、実際何かやってもらってからでないと、なかなか取り組むのが難しいと子育ての様々な場面で聞いている。
- 委員：英語のおはなし会や外国語のおはなしのへやで関わっている。今年は、アメリカ

からインターンシップ生を受け入れたため、アメリカから絵本を何冊か持ってきてもらい、図書館へ寄贈した。インターンシップ生はテキサス州出身だが、バックグラウンドとしてスペインがあるため、スペイン語の絵本も寄贈した。

議長：おはなし会に参加する子どもは、色々な国籍の子どもなのか。

委員：日本の子どもが多い。

議長：会津大学短期大学の学生が読み聞かせを行っている様だが、今年が初めてか。

委員：幼児教育学科が発足して、学生の幼児に対する実習・実践的な面もあり、短大は学生を教育でき、図書館も読み聞かせをしてもらえるとということで、お互いがいい関係で今後も連携できればいいと思う。学生を見ると、図書に親しむ学生もいるが、スマートフォンなどが中心の学生が多い印象がある。幼児教育学科の学生も、人に話を聞かせるという経験があまりなく、少しずつこの事業以外でも、図書館と協力しながらやっていきたいと話している。

委員：社会福祉協議会でもボランティア学園を開講しており、会津図書館の（読み聞かせ）講座も紹介した。今後も情報提供があれば連携できるため、情報があれば教えて欲しい。

また、夏休み期間に、（社会福祉協議会主催の）高校生対象のボランティア養成講座もある。今年は「自分発見ボランティア」という、将来なりたい職業の職場体験を兼ねたボランティア活動を行った。80名近い高校生の参加があり、保育園を希望する生徒が多かった。彼らに、保育園での活動以外にも、子どもへの読み聞かせ等を学ぶ事が将来の仕事に役立つとPRし、図書館の講座ともつなげられるのではないかと思う。開催日時の関係等もあるので、上手く調整できれば、図書館の講座に高校生が参加してもらえるのではないか。

事務局：日程は、夏休み期間を利用する等事前調整し、一緒に実施できればと思う。

委員：生徒は園でも読み聞かせ実習をするが、読み慣れていないため（絵本の）見せ方がわからず、途中で園児が飽きてしまい、生徒が自信を無くしてしまう事がある。テクニック等を学べれば、そういう場面にも対応でき、実習やボランティアにも自信をもって参加できると思う。

ブックスタートでは親子に、絵本の大切さや、小さくても親が読んであげれば子どもに伝わるということを話していかなければと思う。生徒達は、小さい子どもに絵本を読んでも分からないのではないかという感覚なので、語り掛けの大切さなどを伝えていきたい。

委員：古文書講座の人気の高いと思う。実際の希望人数はどのくらいなのか。

事務局：入門編の古文書講座（「はじめての古文書」）は、定員より多くの方から応募があった。中級以上の古文書講座は定員以内だった。

委員：福島県立博物館主催の古文書講座も定員以上応募がある。始めたい人は多いが、講座を開催する場所や講師がおらず、希望に対して受け皿が無い状態である。定員を多くしてもらいたい。

事務局：こちらでも、多くの方が参加出来るようにと思っているが、何度も受講している方もおり、初心者向けなのに理解度のばらつきが起こってしまう。あくまでも初心者向けなので、初級編に関しては複数回参加の方をお断りしている。

委員：古文書講座は7回開催しているが、全部同じレベルでの内容なのか。

事務局：一つのテキストを7回に分けて読む講座であり、同じレベルで進めている。

#### 4. その他

##### (1) 公民館図書室資料を会津図書館へ返却できるサービスの開始について

※事務局より説明

<質疑応答>

議長：すでに利用はあるのか。

事務局：10月29日時点で、18冊の利用があった。公民館で借りた本を図書館の窓口で預かる、というサービスも行っているが、こちらの利用はまだない。

#### 5. 閉会